様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２０ 日現在

機関番号：３７１１１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2023
課題番号：１７Ｋ０２７５０

研究課題名（和文）近代欧文資料から見る中国語の品詞分類と文法論

研究課題名（英文）On Chinese Part of Speech and Grammar in Modern European Materials.

研究代表者
伊伏　啓子（IBUSHI, Keiko）

福岡大学・人文学部・准教授

研究者番号：４０７５９８４１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,000,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、19世紀に欧米から来華した宣教師や中国で活躍した外交官、ヨーロッパの中国研究者によって書かれた中国語文法書に注目し、現代の中国語文法研究に繋がる品詞論と文法論が成立してゆく過程を、系統的に・総合的に記述することを目的とした。19世紀の欧米人による中国語研究は、「馬氏文通」(1898) に始まる中国人が西洋の新しい知識を得て中国語研究を行う前段階に位置し、中国語文法研究史の一端を担う重要な時期であると考えるが、これらの研究成果や知識が中国人に与えた影響や継承関係を明らかにすることは容易ではないことがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は19世紀の欧米人によって行われた中国語研究の品詞論に焦点をあて、彼らによって編纂された中国語文法書の章立てと内容を品詞論的に分析した。ここから、欧米人の母語である西洋言語と中国語を比較分析する過程が見られ、比較によって西洋人が見出した中国語の特徴を見出せる。また、19世紀に出版された複数の西洋人による中国語文法書を分析することにより、欧文資料における中国語文法研究史を明らかにすることができる。さらに、現在の中国語文法研究と比較することにより、19世紀の欧米人によって行われた中国語研究の価値を明らかにすることができる。

研究成果の概要（英文）：This study focuses on the Chinese grammar books written by missionaries from the West who came to China, diplomats active in China, and European sinologists in the 19th century. Its aim is to systematically and comprehensively describe the process through which theories of parts of speech and grammar, which connect to modern Chinese grammatical research, were established. The study considers the 19th-century Western research on Chinese language as a crucial period in the history of Chinese grammatical research, serving as a precursor to the Chinese themselves acquiring new knowledge from the West and conducting their own studies, starting with "Ma shi wen tong" (1898). However, it has become clear that it is not easy to elucidate the influence these research outcomes and knowledge had on the Chinese and the ways they were inherited.

研究分野：中国語学

キーワード：近代来華宣教師　中国語文法書　欧文資料　品詞分類

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

1. 研究開始当初の背景

近世・近代キリスト教伝来のために来華した宣教師たちは、布教活動のために中国語を習得することが不可欠であった。中国語を習得し、聖書を中国語に翻訳し、中国にキリスト教を広めることが彼らの仕事であった。その過程で、多数の中国語教材、文法書、辞書が作られた。これら は後にヨーロッパに送られ、一部の学者はこれらを元に研究を行い中国学者となる。19 世紀に入ると宣教師のほかに、外交官らも熱心に中国語を学び、多くの著作を残している。中西文化交流を軸とした漢学研究が盛んになった現在、このような欧文資料が次々と発掘され、資料の閲覧も容易になった。その結果、これら欧文資料を用いて中国語学研究のこれまでの欠落部分を補完する研究が端緒についた。中国語音韻研究史や語彙史においては大きな成果が生まれている。本研究は 17 世紀から 20 世紀初頭にかけて西洋人によって作られた中国語文法書を分析し、欧文資料に見られる中国語の「品詞分類法」と「文法用語」の変遷、及び「統語論の記述」を検討し、 今日に通じる品詞論と文法論が成立してゆく過程を明らかにする。東アジアの国々は近代化の過程に於いて、西洋の知識を取り入れ、徐々に変化していったが、言語研究も例外ではない。中国語固有の「国語文法」を作るために言語学の知識が西洋から輸入された。「馬氏文通」(1898) に始まる新たな中国語研究は、中国人が外国語を学び、欧米や日本に留学し、新しい知識を得てこれまでの伝統的なものではない新しい国語研究を始めたものである。西洋人による中国語研究は その前段階に位置し、中国語文法研究史の一端を担う重要な時期であると考える。本研究を通して近代西洋人が発見した中国語文法について、当時の西洋的なフィルター(西洋の文法概念を当てはめることによって起こる勘違いやそれゆえに見えてくる特徴)を検討するとともに、現代の中国語文法研究に繋がる品詞論と文法論が成立してゆく過程を、系統的に・総合的に記述することを目指す。

2. 研究の目的

17 世紀から 20 世紀初頭にかけて、欧米の来華宣教師や中国学者、外交官らによって盛んに中国 語の学習と研究が行われた。これら近代西洋人による中国語研究は、「馬氏文通」(1898)に始まる 中国人による新しい中国語文法研究の前段階と位置付けられ、中国語文法研究史の一端を担う重要な時期であると考える。本研究は 17 世紀から 20 世紀初頭の欧文資料に見られる中国語の「品詞分類法」と「文法用語」の変遷、及び「統語論の記述」を検討し、今日に通じる品詞論と文法 論が成立してゆく過程を明らかにする。近代西洋人による中国語研究は、西洋言語と中国語が比 較対照された過程であり、西洋的なフィルターを通して中国語が発見された過程でもあった。近代西洋人による中国語研究を明らかにすると同時に、現代中国語文法研究への応用を目指した。

3. 研究の方法

本研究では、まずこれまで収集した資料の整理を継続しながら、ヨーロッパとアメリカで資料 調査を続け、新しい資料を発掘して欧文資料目録を再構築する。次に各文法書に見られる品詞分 類法に基づき、通時的に語彙を入力し、でータベースを作る。更に同時代の欧米における文法研 究史を整理し、特に品詞分類法とその変遷についての内容に関わる記述を抽出してゆく。最後に これらの資料を用いて、近代西洋人研究における中国語の「品詞

分類」と「文法用語」の変遷、 及び「統語論の記述」を検討し、今日に通じる品詞論と文法論が成立してゆく過程を明らかにする。研究成果は国内外の学会やシンポジウムで発表、論文を執筆し、社会へ発信する。

4. 研究成果

本研究課題において、主に次の研究成果があげられる。

(1) サマーズ著"A Hand Book of the Chinese Language" 1863（『漢語手冊』）の研究

サマーズ（James Summers, 1828–1891）は、19 世紀の英国の漢学者であり、日本学者でもありる。彼は"A Hand Book of the Chinese Language" 1863（『漢語手冊』）などの中国語教材を編纂し、"The Chinese and Japanese Repository" 1864（『中日論叢』）などの雑誌も編集・出版した。彼は 19 歳（1848 年）の時に香港に渡り、香港聖保羅書院（St. Paul's College）で英語教師として勤務しながら、英語を教える傍ら中国語を学んだ。1850 年から帰国するまでの 2 年間は上海で生活し、1852 年に英国に戻った後、ロンドン大学キングス・カレッジ（King's College）で中国語の教育に従事することになる。サマーズは英国で『中国叢報（Chinese Repository）』のような雑誌を出版したいという希望を持ち、『中日論叢』を編集・出版して、アジアの政治、経済、文化を紹介。46 歳の時（1873 年）、彼は日本での仕事に応募し、東京開成学校や日本各地で外国教師（お雇い外国人）として教鞭を執り、1891 年に東京で亡くなった。

サマーズには次のような中国語に関する 4 冊の著作がある：『The Gospel of Saint John in the Chinese Language, According to the Dialect of Shanghai, 1853』（『上海方言約翰福音書』）、『A Lecture on the Chinese Language and Literature Delivered in King's College, 1853』（『中国言語と文学講義』）、『A Hand Book of the Chinese Language, 1863』（『漢語手冊』）、『The Rudiments of the Chinese Language, with Dialogues, Exercises, and a Vocabulary, 1864』（『漢語基礎』）。『中国言語と文学講義』は彼がロンドン大学に就職して間もなく出版した講義録で、全 38 ページ。『漢語手冊』は彼の最も主要な中国語研究著作で、全書は二部に分かれており、第一部は文法（全 231 ページ）、第二部は例文集（全 105 ページ）。『漢語基礎』は『漢語手冊』の文法部分の要約版で、全 159 ページ。彼はロンドン大学キングス・カレッジで教えていた時に『漢語手冊』を編纂した。彼は『漢語手冊』の序文で、外国人が中国語教科書を編纂した歴史を振り返り、18 世紀初めから 19 世紀半ばにかけて西洋人が編纂・出版した 30 余部の中国語教材について言及し簡単に紹介している。これらの紹介から、我々は初期の西洋人の中国語研究の進展の一端を垣間見ることがでる。注目すべき点は、サマーズが当時の西洋学者のそれぞれの教材を詳細に検討し、それらの学術的価値を指摘するとともに、それらの教材に対する彼の見解を紹介している点である。サマーズは、現存する西洋人による中国語教材を検討した上で、『漢語手冊』を編纂したことがわかる。したがって、『漢語手冊』は 19 世紀中葉以前の西洋人による中国語研究を代表する著作の一つであると言える。本研究では、『漢語手冊』の「漢字」、「名詞」、「代名詞」、「動詞」、「副詞」、「形容詞」、「前置詞」の記述を中心に、他の欧文中国語文法書との比較・分析を行い 19 世紀前半の西洋人の中国語研究の一班を明らかにすることができた。

(2) 同時代の来華宣教師中国語資料との関連について

19 世紀に中国語文法書を編纂した来華宣教師たちは、聖書の翻訳、讃美歌の翻訳と編纂、教会学校の教科書やカテキズムの執筆などにも従事しており、同時代に複数の異なる中国語

著作を残していることがわかっている。本研究を通して、彼らの執筆した中国語文法書で述べられている知識が、これらの著作に反映されているか、また語彙や文体について共通点が見られるかどうかという点も非常に興味深いテーマであることがわかった。この作業は未完成であるが、今後は「19 世紀中国語讃美歌の形成（翻訳と編纂）」というテーマのもとで、引き続き、19 世紀の欧米人によって記録された中国語の特徴とそれらが中国語に与えた影響について調査研究を進めていく予定である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計14件（うち査読付論文　5件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　5件）

１．著者名 塩山正純	４．巻 12
２．論文標題 『致富新書訳解』（1875）が経済を説明したことばについて	５．発行年 2023年
３．雑誌名 『日中語彙研究』（愛知大学中日大辞典編纂所）	６．最初と最後の頁 241-259
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 朱鳳	４．巻 12
２．論文標題 『致富新書』の翻訳考－原書との比較を中心にー	５．発行年 2023年
３．雑誌名 『日中語彙研究』（愛知大学中日大辞典編纂所）	６．最初と最後の頁 227-240
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 塩山正純	４．巻 27
２．論文標題 明清時期西洋人“官話”描述演変史	５．発行年 2021年
３．雑誌名 国際漢学	６．最初と最後の頁 145-154
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 塩山正純	４．巻 42
２．論文標題 M.F.Crawford著『造洋飯書』(1866)が調理を表現した中国語―動詞と量詞、時間表現を中心に―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『関西大学中国文学会紀要』	６．最初と最後の頁 67-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 塩山正純	４．巻 46
２．論文標題 關於西洋学者對介詞的分析―管窺19世紀上半叶西洋学者漢語詞類認識進程―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『文明２１』	６．最初と最後の頁 23-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 伊伏啓子	４．巻 1
２．論文標題 關于早期西方漢語語法書里的“一個”	５．発行年 2020年
３．雑誌名 《国際漢語教育史研究》	６．最初と最後の頁 163-172
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 伊伏啓子	４．巻 42
２．論文標題 19世紀漢語教義問答―以《小問答》(1874)為例―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『関西大学中国文学会紀要』	６．最初と最後の頁 83-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 伊伏啓子	４．巻 46
２．論文標題 早期西方人的漢語研究 ―關於形容詞解釋―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『文明２１』	６．最初と最後の頁 13-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 千葉謙悟	４．巻 46
２．論文標題 薩默斯《漢語手冊》所見的系詞與存在動詞述論	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『文明２１』	６．最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 朱鳳	４．巻 8
２．論文標題 薩默斯及其他欧洲漢学家対「六書」的観察-以19世紀的漢語教科書為資料	５．発行年 2019年
３．雑誌名 日中語彙研究	６．最初と最後の頁 41-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 伊伏啓子	４．巻 8
２．論文標題 薩默斯的漢語研究－以名詞為主－	５．発行年 2019年
３．雑誌名 日中語彙研究	６．最初と最後の頁 61-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 塩山正純	４．巻 8
２．論文標題 薩默斯怎麼様分析漢語“副詞”－俯瞰19世紀上半叶西洋学者漢語詞類認識的進程的一端－	５．発行年 2019年
３．雑誌名 日中語彙研究	６．最初と最後の頁 113-125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 奥村佳代子	4．巻 8
2．論文標題 薩默斯的漢語研究―関于薩默斯 1863 以前的代詞和人物称呼―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日中語彙研究	6．最初と最後の頁 75-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 伊伏啓子	4．巻 46
2．論文標題 19世紀欧文資料に見られる”一個”について	5．発行年 2019年
3．雑誌名 北陸大学紀要	6．最初と最後の頁 43-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計19件（うち招待講演　0件／うち国際学会　8件）

1．発表者名 伊伏啓子
2．発表標題 T.P.クロフォードの中国語讃美歌の翻訳と創作 ―《讃美詩》1870を中心に
3．学会等名 東アジア文化交渉学会第14回年次大会（オンライン）　2022年5月8日（国際学会）
4．発表年 2022年

1．発表者名 朱鳳
2．発表標題 プティジャン版『　瑰花冠記録』の漢字翻訳語に関する考察
3．学会等名 東アジア文化交渉学会第14回年次大会（オンライン）　2022年5月7日
4．発表年 2022年

１．発表者名 塩山正純
２．発表標題 近代在欧美女学者的“官話”観　以海侖・倪維思的回記録為主
３．学会等名 東アジア文化交渉学会第14回年次大会（オンライン） 2022年5月8日
４．発表年 2022年

１．発表者名 伊伏啓子
２．発表標題 品詞名称“形容詞”来源与早起西方人漢語形容詞研究
３．学会等名 “国際化視野下的漢語全球教育史”国際学術研究会・第12届年会世界漢語教育史研究学会（河北大学）オンライン
４．発表年 2021年

１．発表者名 伊伏啓子
２．発表標題 A Study on Missionaries Chinese Grammar Books
３．学会等名 23rd Biennial Conference of the European Association for Chinese Studies August 24-27, 2021,Leipzig,Germany (online)
４．発表年 2021年

１．発表者名 塩山正純
２．発表標題 The words of time in Chinese Bible（漢語聖経中的時間表現）
３．学会等名 23rd Biennial Conference of the European Association for Chinese Studies August 24-27, 2021,Leipzig,Germany (online)
４．発表年 2021年

１．発表者名 塩山正純
２．発表標題 从倪維思夫人的著作窺看19世紀中叶在華欧美女学者的“官話”観
３．学会等名 “国際化視野下的漢語全球教育史”国際学術研究会・第12届年会世界漢語教育史研究学会（河北大学）オンライン
４．発表年 2021年

１．発表者名 朱鳳
２．発表標題 Western Food Culture Written in Missionaries’ Chinese Books
３．学会等名 23rd Biennial Conference of the European Association for Chinese Studies August 24-27, 2021,Leipzig,Germany (online)
４．発表年 2021年

１．発表者名 伊伏啓子
２．発表標題 高第丕編譯《讃美詩》(1870) 初探
３．学会等名 東アジア文化交渉学会第12回年次大会（中国・鄭州大学）オンライン（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 塩山正純
２．発表標題 漢訳聖書における異文化翻訳 ―早期漢訳・文理訳・官話訳の時間表現を例に―
３．学会等名 中国近世語学会2020年度研究集会「小特集・漢訳聖書研究の現在」（関西大学）オンライン
４．発表年 2020年

１．発表者名 塩山正純
２．発表標題 関於西洋学者対介詞的分析　－管窺19世紀上半叶西洋学者漢語詞類認識進程－
３．学会等名 東アジア文化交渉学会第11回年次大会（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 伊伏啓子
２．発表標題 早期西方人的漢語研究 －19世紀上半叶西方人如何理解漢語形容詞
３．学会等名 東アジア文化交渉学会第11回年次大会（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 伊伏啓子
２．発表標題 《小問答》（1874）的漢語―19世紀西方傳教士問答資料研究―
３．学会等名 四百年来東西方語言互動研究ー第二届近代東西語言接触研究学術会議会（2019）
４．発表年 2019年

１．発表者名 朱鳳
２．発表標題 薩默斯及其他欧洲漢学家対「六書」的観察-以19世紀的漢語教科書為資料
３．学会等名 世界漢語教育史研究学会第十届年会「数位下時代下的漢語全球教育史国際学術研討会」（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 伊伏啓子
２．発表標題 薩默斯的漢語研究－以名詞為主－
３．学会等名 世界漢語教育史研究学会第十届年会「数位下時代下的漢語全球教育史国際学術研討会」（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 塩山正純
２．発表標題 薩默斯怎麼様分析漢語“副詞”－俯瞰19世紀上半叶西洋学者漢語詞類認識的進程的一端－
３．学会等名 世界漢語教育史研究学会第十届年会「数位下時代下的漢語全球教育史国際学術研討会」（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 伊伏啓子
２．発表標題 《北京官話全篇》的量詞和其功能
３．学会等名 東亜文化交涉學會第十屆年會「海洋東亞ー交流、網路與流動」（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 伊伏啓子
２．発表標題 近代欧文資料に見る中国語の品詞分類について
３．学会等名 東アジア文化交涉学会第10回国際学術大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 伊伏啓子
２．発表標題 早起西方漢語教材里的量詞功能
３．学会等名 世界漢語教育史研究會第十届年會
４．発表年 2017年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	塩山　正純 (SHIOYAMA Masazumi) (10329592)	愛知大学・国際コミュニケーション学部・教授 (33901)	
研究分担者	朱　鳳 (ZHU Feng) (00388068)	京都ノートルダム女子大学・国際言語文化学部・教授 (34312)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	奥村　佳代子 (OKUMURA Kayoko) (10368194)	関西大学 (34416)	
研究協力者	千葉　謙悟 (CHIBA Kengo)	中央大学 (32641)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関